

令和七年度別府市小・中学生「人権作文」

佳作

「いのちの大切さ」

別府市立上人小学校三年 山本 莉叶

私の母は、日ごろから周りの人たちを大切にしなさいと言います。母は、かんごしの仕事をしており、人の死を何とも見てきました。生きたくても生きられない人がたくさんいます。テレビやニュースで自ら命を絶つ人たちを多く目にします。命を絶つ前にどうにかとめることができなかつたのでしょうか。いじめなどでなやんでいる人がもし私のちかくにいるのであれば、話を聞いたりすることでたすけてあげたいと思います。

いじめとは、いじめられている人にしか分からないことがあります。むしろなかまはずれ、かげぐちなどしている人には分からないことがたくさんあります。自分の行動もあらためてふりかえるひつようがあります。自分のせいで相手をきずつけてしまわないように気を付けていきたいと思えます。周りにいる家族や友だちがいることはあたり前ではありません。周りにいる人たちを大切にしていきたいと思います。そのため、日ごろから周りの人たちには感しやの気持ちをもつだけではなく、言葉に表していききたいです。その中でも、ありがとうという言葉は母がよく使っています。何でもやってもらって当たり前ではなく、一つ一つありがとうを伝えていききたいです。ごはんを作ってくれてありがとう。せんたく物をしてってくれてありがとう。習い事のバスケットやダンスの送りむかえをしてってくれてあり

がとう。いつも休みの日には、あそびにつれていってくれてありがとう。いつも私のそばにいてくれる家族や友だちにも言っただけでなかった、言えなかったありがとうがたくさんありました。友だちとどんなに言いあいやけんかになっても友だちがいなくてけんかもできません。友だちがいることに感しやしないといけません。私にとって家ぞくや友だちがいるのは、当たり前でしたが、かんごしの母の言葉にはとても考えさせられました。母の言葉の意味をあらためて考えてみたとき、友だちがいることに感しやして、もっと友だちを大切にしないではいけないと思いました。友だちだけでなく、私の生活にかかわってくれてるすべての人たちに、感しやの気持ちを持たなければならぬと思いました。ありがとうという言葉で、みんなへの感しやの気持ちを伝えることが大切なのだと思いました。私は生まれてから八年間、家ぞくをはじめ、たくさんの人にお世話になり、くろうをかけ、さきえられました。今まで言えなかったありがとうは数え切れないほどあります。でも、そのことに気づいた今は言えます。

「ありがとう。」

そして、大切な家ぞく、友だち、私にかかわってくれてるすべての人たちが私のそばでわらっていていてくれるだけで思っています。ちゃんと伝えることもできます。

「いつも私のそばにいてくれてありがとう。」

そして、友だちでいてくれてありがとう。